

発行所 留萌市役所 電話(代)270番 編集人 田邊勝郎 留萌市三丁目印刷所 印刷所 金子印刷所 (毎月1回 1日発行)

るもい 廣報

3月中の人口のうごき 世帯数 8,950世帯 人口 38,479人 出生 33人 死亡 15人 転入 67人 転出 33人

海洋博 海を神秘を探る 開催を決定す

歴史的な光輝ある開基八十周年、市制施行十年の年を迎えて、いろいろな意義ある事業や行事について何回も役員会の重なる協議を重ねてまいりました。留萌市において初めてある博覧会、海の神秘を探る海洋博を開催することと決定しました。

多彩な行事を展開

開基八十周年 記念事業に協力を 市制施行十年

- ①開基主官 「われわれに豊かな食料を供給してくれる海、われわれと外国とを結び、わが国力を養ってくれる海、海こそは狭い国土に住むわれわれを守り、育て伸ばしてくれる自然の恩恵、われわれのふるさとなのです。海の神秘を探るこの探検の旅は、少年達に海の知識を興え、海への親しみを増すことに役立つでしょう。」

- ⑥貝類のいろいろ ⑦日本の海産物 ⑧海藻のいろいろ ⑨七つの海 ⑩海の童話いろいろ 浦島太郎 ノアの方舟 人魚姫、その他 ⑪海と日本 ⑫海底探検 大メノラ構成 左右にせまる岩礁をぬって進んで行くと、怖ろしい深海魚、巨大な大蛇の戦い、難破船には白骨が無気味に光っている。無数の魚がちらちらと遊泳する海底の立体大セット、電動装置、照明設備、幻灯を活用して、海底を再現し、探検のスタイルと涼味を満喫させる。

芦別-深川間鉄道の建設決定

産業開発に重要な役割

留萌港の発展も期待

芦別-深川間(芦別-留萌間全通)の鉄道建設は、大正十四年以来三十有余年間の運動を経て、国会に請願して採擇されること十数度、昭和六年には實地測量をおこなった。この重要なことは、太平洋戦争のため延期されていたものです。終戦後北海道総合開発計画が進むにつれてこの鉄道は本道中央部と日本海を結ぶ有力な経済線としてますます重要なものとなりました。深川、芦別、音江、納内、留萌の關係市町村は一九九となつて「深川附近芦別間鐵道建設促進期成会」を結成し、猛運動を續けた結果去る四月三日の鐵道建設審議小委員会で建設線に決定し、三十年來の念願がようやく實現することになりました。本鐵道は芦別-更進-音江-深川を経て留萌線に接続する延長約三十一キロのもの。芦別-更進-納内を経て深川に至る約二十九キロの二案があり、何れの路線になるかは今後の調査によつて決定されますが、いずれにしても本鐵道の實現によつて石炭輸送の實現、留萌港の飛躍的發展と根室留萌、深名、各線の沿線地帯との經濟交流が活潑にな



納税三角くじの 幸運は誰に!! 昭和三十一年度自動車荷車税、ミシン税及犬税の納期が五月三十一日です。納税三角くじの特等(洋服生地)一等(醤油一樽)以下各等がまだたくさん出ているので、物件税を納期内に納入し、是非特等若しくは一等をいともて下さい。

山口の自轉車 各種自轉車20數類 齊藤自轉車店 電話 885番

たからや呉服店 毎度有難う 御座います 留萌市

ほくさんのプロパンガス 楽しいアナタの御家庭? 奥様方え お台所への マスコット